

IAUD Newsletter vol.10 第3号(2017年6月号)

1. ロンドン「デザイン・ミュージアム」企画展に出展協力	1
2. IAUD アワード 2017 募集開始のご案内	5
3. 「第6回国際UD会議 2016 in 名古屋」開催レポート公開	5
4. 国際UD会議開催 15周年記念 予稿集・論文集・講演集 限定セット販売のご案内	6
5. IAUD 6月の予定	6

新たなデザインが私たちの将来の暮らしを変える ロンドン「デザイン・ミュージアム」企画展に出展協力

現代デザインに特化した英国唯一の博物館「デザイン・ミュージアム」(ロンドン・ケンジントン地区)で、1月12日(木)から2月19日(日)までの約6週間、世界の高齢化対策にデザインが果たす役割について理解を深める企画展「The New Old: Designing for our Future Selves(ニュー・オールド: 未来の私たち自身へのデザイン)」が開催され、優れた日本のUD商品出展についてIAUDに依頼があり、協力しました。

今号のNewsletterでは、この企画展について紹介します。



企画展「The New Old」ポスター

世界初のモダン・デザイン専門ミュージアム

「デザイン・ミュージアム」は、建築、ファッション、グラフィック、プロダクトやインダストリアルデザインなど、幅広い分野のコンテンポラリーデザインが集められており、現代デザイン界をリードする博物館として人気を博しています。

以前はロンドンのテムズ河南岸にありましたが、2016年11月にケンジントン地区にある歴史的建造物の旧コモンウェルス・インスティテュート(英連邦協会)に移転しました。

新しい施設では、展示フロアの面積がこれまでの3倍になり、特別展示スペースやカフェなどの附属施設も充実しています。

「デザイン・ミュージアム」のコレクションは、ロンドンのヴィクトリア・アルバート博物館(V&A)で1982年から1986年までデザイン奨励を図る社会貢献事業であった「ボイラーハウス・プロジェクト」からスタートし、19世紀の産業革命からここ数年のデジタル革命にいたるまで、建築、ファッション、グラフィック、プロダクトなど多岐にわたるデザインで構成されています。

コレクションの目的は、一般の人々がデザインを理解する手助けとなることです。過去のデザインの実例に加え、デザインを考える過程を示すものや道具、下書きやプロトタイプ、製品化されなかったデザインや生産が終了した製品なども扱っています。



新たに開館した「デザイン・ミュージアム」

社会において、新しく、影響力があり、革新的で実験的なデザインを集めることを目指しています。

高齢化問題に対処する新たなデザイン

今回の企画展「The New Old: Designing for our Future Selves (ニュー・オールド: 未来の私たち自身へのデザイン)」は、前述した「デザイン・ミュージアム」の前身であるヴィクトリア・アルバート博物館の「ボイラーハウス・プロジェクト」で、1986年にヘレン・ハムリンとエリザベス・ヘンダーソンによって開催された斬新な展示会「New Design for Old (高齢者向けの新たなデザイン)」の30周年記念として実施されました。



企画展「The New Old: Designing for our Future Selves」

今回は、英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (RCA) ヘレン・ハムリン・センター・フォー・デザイン のジェレミー・マイヤーソン教授がキュレーターを担当し、同センターをコンテンツ・パートナーとして開催されました。

ケンジントン地区に移転したばかりの「デザイン・ミュージアム」のオープニング行事の一環として無料開催され、6週間で約5万人が来場しました。

この企画展は、企業や公共機関と協力し、高齢化におけるデザインやデザイナーの潜在的な役割をアピールするものです。

従来の高齢化社会から連想されるのは、依存、不健康、老衰、死でした。しかし、現在の高齢化社会モデルの「前期高齢期」である「新たな高齢者」は、まだ生産的で他人や社会とつながっている時期であり、高齢者には特別で魅力的な何かがあるとされています。

これはデザイナーに多大な影響を及ぼしています。これまで特殊なニーズの集団に対応する小規模なデザインだったものが、かつてない人口構造の変化によって主流になるためです。

スタンフォード長寿研究センターによれば、世界の平均寿命は2008年には67歳、2050年には75歳まで増加すると予想されています。2050年までに60歳以上の人口は2倍になり、世界の人口の22%に達します。最も高齢化の著しい日本では、60歳以上が人口の44%、英国では30%に達するでしょう。すでに、英国では10代の若者の数を年金生活者の数が上回っています。

「新たな高齢者」の年の重ね方は、かつての高齢者とは異なり、教育があり、技術的な可能性を積極的に試し、高齢でも、より長く活発な生活を送ります。

一方、高齢化につきものの問題がなくなるわけではありませんから、施設に入ったり介護を受けたりすることなく、自宅で独立して活発な生活を送り、健康を維持する必要があります。社会の高齢化が進み、人口構造が劇的に変化しつつある現在、高齢者はデザインの革新を強く望み、必要としています。

そして、建築からテクノロジーまであらゆる分野で、デジタルアプリケーションや家電のデザイン変更など、新たな高齢者の問題に対処する道は大幅に開けました。

この企画展は、デザインの背景となる人口構成の変化を解説



館内の様子

するとともに、生活、健康、通信、移動などの分野に従事する最先端のデザイナーに委託したプロトタイププロジェクトを紹介しました。

これは、現代の最も重要な政治的・社会的課題に注目し、デザインが私たちの将来の暮らしを変えられるという楽観的な展望を示すものです。

高齢化の問題に対処する多様な新しいアプローチを紹介し、新たなデザインが、どのように高齢になっていく人々をより幸福に、健康に、暮らしやすくすることができるかを探ります。

IAUD が日本の UD 商品を紹介

展示は主に3つのセクションに分かれており、民族性、健康、ジェンダー、精神的な健康、性、頭脳の回転の速さ、医療、記憶など幅広い分野にわたって高齢化に対応するデザインを検討しました。

導入部では、社会的、文化的、人口統計的な背景を踏まえ、「新たな高齢者」を定義しました。

まず、強烈な印象のグラフと関連データや国際比較を通じて人口構成の変化を伝え、次に、高齢者のニーズに応じて製品やサービスを変化させつつあるロボット工学やデジタル製造などの新テクノロジーを紹介しました。

このセクションでは、高齢者の運動能力や敏捷性が関節炎によって低下し、視力や聴力も衰えることを来場者が実感したり、「加齢マシン」では、40年後の自分がどんな姿かを見ることができました。

第2のセクションでは、多様な分野と世代の国際的デザイナーに、「デザイン・ミュージアム」が特別に委託したプロトタイプを6つ展示しました。画面上で物体が移動した後も記憶を維持する方法や、介護生活に適した建築などです。

第3のセクションでは、ヘレン・ハムリン・センター・フォー・デザインの研究員が製作したものを含め、高齢者のための幅広い革新について展示しました。

ポータブル車椅子用の折り畳み式車輪、「新たな高齢者」向けデザインのキッチンやバスルーム、「スマート救急車」など、様々なアイデアを紹介しました。

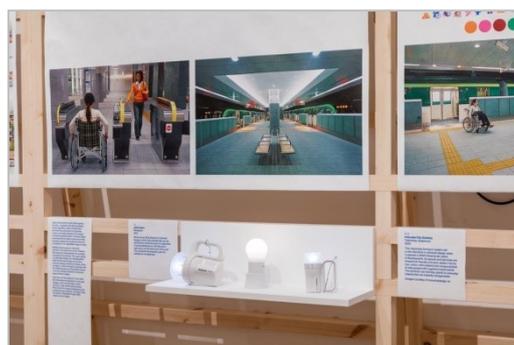
この企画展に、優れた日本のUD商品を出展してほしいとIAUDに依頼がありました。

そこで、IAUDはパナソニック株式会社の「いつもの便利×もしもの備え」シリーズから「球ランタン」(「IAUDアワード2015」プロダクトデザイン部門銀賞受賞)、「電池がどれでもライト」(「IAUDアワード2015」非常時配慮デザイン部門銀賞受賞)、「電池がどっちかライト」(「IAUDアワード2016」非常時配慮デザイン部門IAUDアワード賞)、また、昨年12月に開催された「第6回国際UD会議2016 in 名古屋」展示会にも出展されたアザラシ型ロボット「パロ」を、日本らしい心配りや新しいUD価値を提案している商品として推薦しました。

日常でも災害時でも利用可能

パナソニック株式会社が出展したランタンやランプは、シンプルなデザインの多機能型照明で、災害時にも使いやすく配慮されており、日本がおかれた環境を考慮の上、開発されています。

「球ランタン」は、毎日、多用途に使える便利なライトです。電池式で簡単に持ち運べるため、ベッドサイドやキャンプでも重宝し、手元に置いておけば緊急時の役に立ちます。



パナソニック(株)出展のランタンとランプ

また、電池寿命が非常に長く、最大で 1,000 時間使用できるため停電時にも安心です。明るさも 2 段階に切り替えられるため、子供部屋や夜間の授乳時、あるいは押し入れその他の暗いスペースにも必要に応じて吊り下げて使うことも可能です。LED 照明ですが、やさしい光と電球の形状が親しみやすい印象を与えます。

「電池がどれでもライト」は、単 1 形から単 4 形まで 4 種類の電池に対応している懐中電灯です。LED テクノロジーのおかげで電池寿命が非常に長くなっています。また、長さ 135mm と小型で軽く、大型ハンドルがあるため、あらゆる年代のユーザーにとって使いやすく、安定した形状によって縦置きでも使用可能です。

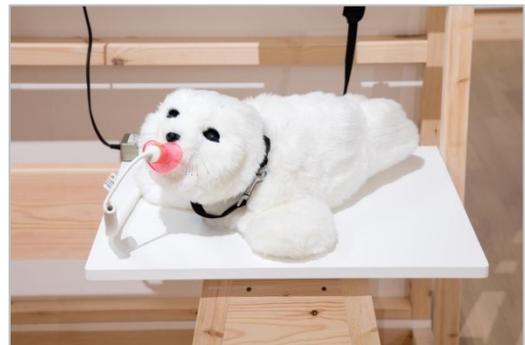
さらに、緊急時や停電の場合には、他の電化製品に入っている電池など、手元にある電池を利用できます。

「電池がどっちなライト」は、単 3 形、単 4 形の電池いずれか 1 本で、懐中電灯またはランタンとして使える多用途・軽量 LED ライトです。これも、緊急時には他の電化製品などに入っている手元にある電池を使えるようになっています。

セラピー効果のあるロボット

アザラシ型のロボット「パロ」は、セラピー効果があるメンタルコミットロボットです。2002 年のギネスブックにも「世界でもっともセラピー効果があるロボット」として公認されています。

「第 6 回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」では、開発者である産業技術総合研究所人間情報研究部門上級主任研究員の柴田崇徳氏にご講演いただき、「パロ」の開発過程や進化の経緯、海外での導入事例などを報告いただいたほか、コミュニケーションの活性化や社会性の向上など、「パロ」によるセラピー効果についてもお話しいただきました。



メンタルコミットロボット「パロ」

「パロ」の姿はタテゴトアザラシの赤ちゃんで、多数のセンサーや人工知能の働きによって人間の呼びかけに反応し、抱きかかえると喜んだりするほか、人間の五感を刺激する豊かな感情表現や動物らしい行動をし、人を和ませ、心を癒します。

動物が飼えない方や、アニマル・セラピーの導入が困難な施設などのために、アニマル・セラピーに替わる「ロボット・セラピー」用ロボットとして研究・開発されたものです。

多くの介護福祉施設や小児病棟などでの研究・検証の結果、「パロ」によるロボット・セラピーはアニマル・セラピーと同様の効果があることが確認されました。

アメリカでは FDA(食品医薬品局)より医療機器として承認されており、多くの医療施設や介護福祉施設などに採用、自閉症の子どもたちや認知症の高齢者などのセラピーに効果を上げ、高い評価を得ています。

日本でも「パロ」のセラピー効果が注目され、現在、介護福祉分野での導入が進んでいます。

展示会では多くの来場者が展示されている「パロ」に触れ、呼びかけに反応したり、撫でたりすると喜ぶ仕草を示すなど、人間の五感を刺激する感情表現や動物らしい動きを見せる癒し効果を実際に確認していました。

展示会を紹介している下記サイト内の「New Scientist comes to the Design Museum」に、「パロ」も取り上げられています。

<https://designmuseum.org/things-to-do/talks-and-events/pop-up-exhibitions/new-old>

海外で2年間巡回展

この企画展は「デザイン・ミュージアム」で開催後、英国内のほか海外の都市や高齢化関連機関を巡回し、プロジェクト全体として2年以上にわたって影響を与えるようになっていきます。

今年10月3日から17日まではポーランドの「ウッチアートセンター」での「ウッチデザインフェスティバル」、2018年1月13日から4月23日までは台湾の「高雄市立美術館」を巡回します。巡回展にはそれぞれ最先端のデザイナーを指名するため、個性的でインパクトのある展示になることは間違いありません。

また、巡回展にもパナソニック株式会社のランタンとランプ、アザラシ型のロボット「パロ」も展示予定です。(了)

※「The New Old: Designing for our Future Selves」の詳細は以下のサイトをご覧ください。

<https://designmuseum.org/things-to-do/talks-and-events/pop-up-exhibitions/new-old>



多くの人が快適で暮らしやすい UD 社会の実現を推進 IAUD アワード 2017 募集開始のご案内

IAUD は、UD 社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行なっている団体や個人を表彰する「IAUD アワード 2017」を、今年も実施いたします。

UD において一定のレベルを満たしていると審査委員会が判断したものに対して「IAUD アワード」を授与し、「IAUD アワード」マークをUDの普及啓発のために使用できます。

また、「IAUD アワード大賞」、IAUD 総裁「特別賞」、部門別の「金賞」「銀賞」などを予定しています。

第1次審査の応募締め切りは7月18日(火)です。皆様の応募をお待ちしております。

「IAUD アワード 2017」詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8600/>



昨年12月の「IAUD アワード 2016」表彰式
(名古屋国際会議場)

世界30ヶ国から約12,000名が来場

第6回国際UD会議 2016 in 名古屋」開催レポート公開

2016年12月9日(金)から11日(日)までの3日間、名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)で開催された「第6回国際ユニヴァーサルデザイン会議 2016 in 名古屋」の開催レポートが公開されました。

基調講演やセッション、特別報告、併設展示会などの開催内容が掲載されています。ぜひこちらよりご覧ください。

<https://www.iaud.net/conference/8665/>



開催レポート

国際 UD 会議の集大成

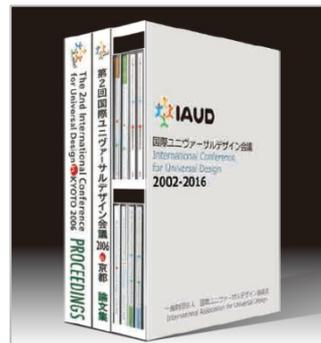
国際 UD 会議開催 15 周年記念 予稿集・論文集・講演集セット 限定 200 組販売

IAUD はこの度、国際ユニヴァーサルデザイン会議開催 15 周年を記念して、これまで実施した 6 回の国際 UD 会議で作成した予稿集・論文集・講演集セットを、限定 200 組販売いたします。

セット内容は CD-ROM12 枚と書籍 2 冊です。是非この機会にお買い求めいただき、学際的、業際的な広がりを見せる UD の国際的知見に触れていただき、皆様の研究開発の一助になることを願っています。

お申込み・詳細は以下をご覧ください。

<https://www.iaud.net/conference/8520/>



予稿集・論文集・講演集セット



2017 年 6 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8 14:00～ 研究部会 @TDI	9	10	11
12	13	14	15 15:00～ 理事会 @NEC 本社ビル	16	17	18
19	20 14:00～ 移動空間 PJ @ビジネス・アー キテクツ	21	22 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	23	24	25
26 15:00～ 情報交流センター @IAUD サロン	27 10:00～ 余暇の UDPJ UD 映画鑑賞会 @シネマ・チュプ キ・タバタ	28 13:30～ ワークスタイル PJ @マイクロソフト 品川オフィス	29 15:00～ 評議会 @NEC 本社ビル	30		

無断転載禁止

次号は 2017 年 7 月発行予定

特集: 標準化研究 WG「UD 授業」報告ほか

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: info@iaud.net